

磐城時報

編輯人 田田 弘成
印刷所 磐城時報社
電話 一四九

依然事業が振はない
石城郡の各會社

平稅務署調査に依る石城郡下に休業の止むなき状態にある會社
本店を有し各種事業を經營して社數二十、資本金二百三十九萬

石城の春蠶

石城郡に於ける春蠶についてはを召集し決定するものと思はれ
間右委員會で審議、五日本會議

平商業校の進學者

本年は無試験で許可

昭和二年以降の卒業生に

平町では實業學校新設の輿論に新四年生五十名は今年卒業生中
動かされ取敢ず町立商業學校から希望者を選び收容する事

六町議が
聲明書發表

平町會議員佐藤岩次郎、武田元
思ひ込み自宅の土藏の中の桶に
刺し込み刃を刺すのを見かねた村長

殴つた上食を與へぬ
女給を虐待する主人

警察で正直に申立たのを憤慨

平町南町二十七番地一、新玉の所得稅營業收益稅納税者の申告
家事水山キム(二二)方に去る一

村長と助役
報酬辭退

石城郡玉川村の昭和五年度歳入
出算は此の程可決定したが
同村長駒木根忠三氏は犠牲的に

内郷の賭博

郷村大字宮城嶺炭坑坑夫佐藤今
郷村大字宮城嶺炭坑坑夫佐藤今
郷村大字宮城嶺炭坑坑夫佐藤今

植田の實兄殺し
豫審終結して公判

放蕩無賴の息子と父と弟が一家(一九)に係る殺人及死体遺棄事
のため遂に殺害することを決意するのを後福島地方裁判所の豫

實業校を志望
平小學校卒業生

各中學校の入学志願者は前年
比し何れも豫募者の減少を
豫想してゐるが平町第一、二の

飲食店で殴る

平町
宇都宮町橋谷方自動車運轉
手伊藤金次(三四)は去る二月二

生花商開業

永らく磐
城中學校に勤務してゐた八田與
市氏は今回同校を退き平町一丁

印刷物は加納活版所

印刷物は加納活版所
郷村大字宮城嶺炭坑坑夫佐藤今
郷村大字宮城嶺炭坑坑夫佐藤今

納稅申告督勵

平稅務署では管内の五年度賦課
あることを希望してゐる。

▲聚樂館の魔術

平町

聚樂館では五日から大魔術松旭齊天才一座で開演する、入場料は大人三十銭、小人十銭である。犯罪を防ぐ。一農民生投。私の部落は個數三十戸許り、住民は極めて平和に煙りを立て、居る、駐在所は部落より一里の上も離れて居て巡査は何かの事件あるごとに形式的に姿を現すのみである、事件以外には凡そこの姿は見たくも見られない、幸ひピストル強盗、説教強盗の出現を見ないが、萬一之に類似の危険人物の流行を見た場合村民は戦々怖々として四人も五人も役場によつて此の關入者に當るのだ、何等警察權の恩恵を蒙つてゐないの感がある。

時報文藝

春愁

五月の田圃から眞夏の太陽の下で田の草取り、更に秋の收穫時副業としての養蠶、長い間の目まぐるしい生活は到底都會人の考への比ではない、この生活から離れて漸く冬籠りに十一月以後新聞紙上の三面記事を賑はしてゐる賭博などの犯罪を犯されるのだ、このやうな事件は例年の如く、この時期閑暇に折に行はれるのが多い、須らく巡査たる者之を未然に防がうとせず、犯罪を犯すは俺は縛つてやる？の感があるのはいくら職業柄とは云へ面白くない現象である。

早春の眼醒めの床に
しのびやかな絹すれの音
さらさら
私語をゆるめる軒端の
曉の小雨はのやかに
川柳のうす緑なる芽の
かほを吐息
鈴玉のゆれ、落つる
淡きかなしみ。
温かき静かに……
早春の空はけむりて
濡れ光る若き命の
ふくよかに伸びゆく。

ハガキ集

(投書 歡迎)

▲平町南町の〇屋方で毎夜の如く賭博をやつてゐるが、今のうちにやめぬと警察署に密告するぞ(負けた者生)▲平町役場の若い書記さんよ、先達で連れて歩いてゐた女は妹さんではないやうでしたか父見つけたと見えますね(岡焼生)▲お寺の嫁よ、しのび給へ、坊主は狂つてゐるんだ、今少しの、時節来れば慈愛の光も認めることが出来るのだ食膳に向つても、隱居の狂坊主に侮られて、泣きつゝ部屋に行つて胸のちぎれるばかりはすべてを見て見る(障子生)

貸家案内

五丁目 勤人向 四圓五十銭
長橋町 同 五圓五十銭
舊城跡二ノ丸同 八圓五十銭
柳町 同 六圓五十銭
白銀町 加藤營業所

共済會

融金 / 易問 / 壽貯 / 味趣 / 團堅 / 意誠

貸家あり

平町新川町十七番地
商店向き一ヶ所
家賃 十四圓五十銭
何れも水道の便あり
中野勇吉

佛國マルソー會社元詰

生葡萄酒

マルソー・ブランク・白 子110
マルソー・ルージュ 赤 子110
良品にして安價賣行飛ぶが如し

西村屋藥局

生花商花友

平町字一丁目(電話三三三六番)
八田與市

丹後澤舟遊會

丹後澤鯉養育所

無料眼鏡 TOKIWAYA

無料検眼開始致シマシタ
専門眼科醫師擔任
價富 調整 正確
廉費 可調 正度
品品 親切 示
良商 親即 示

近視 老視 亂視 遠視 斜視

無料検眼券 眼鏡部 電三三九
御用下サイ

平町一丁目 常盤屋時計店

開業廣告

今般左記ノ通り開業致候間此段及謹告候
昭和五年三月一日

専門内科一般

住宅 診察時間 午前七時より午後十時迄
但し急患はこの限りにあらず

川井内科診療所

平町南町六五(元大和田耳鼻科跡)
電話七二二番

醫學士 川井重子
女醫 川井安子

耳鼻咽喉科

平町仲田町七一
新築場所 合津醫院
電話五五九番

熱心湯

「まあ丈夫になつたわ」是れも平町七丁目の熱心湯のお蔭様よ。ほんたうにいゝ香りだわ……そして湯の安い事、朝の十時から夜迄入つて湯治の方は二階座敷料共で僅か二十五銭よ」

「あらさう?! それではあたかもこころから毎日行くわ、そして丈夫な身体になるわ……」



鎮咳液

セキの薬 祛痰

吉田眼科醫院

平町紺屋町
電話六八番